

令和5年度足立区総合教育会議 要旨

要旨は、議事録から抜粋してまとめた内容であるため、発言の趣旨等の全体像については、議事録で発言前後の内容をご確認ください。

【議題】

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の開校に伴う区不登校対策事業との連携

【概要】

足立区の不登校児童・生徒の割合は国や東京都の平均値を下回っており、これまで、個々の状況に応じた多様な支援を実施してきた効果が現れてきています。しかしながら、その数は令和4年度に過去最多の1,162人となっており、さらなる効果的な対策を続けていくことが必要です。

このような状況の中、今回は、足立区が実施または実施を検討している対策に加えて、令和6年度に、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）を開校する三幸学園からゲストを招き、不登校支援のこれからのあるべき姿について、教育委員と意見交換を行いました。

○「足立区における不登校対策」

大山教育長より資料に沿って説明

○「東京みらい中学校の取組み」

学校法人三幸学園 事業開発部/教育開発部 統括部門長 高岡氏より資料に沿って説明

【質疑、意見等（要旨）】

1 東京みらい中学校について

- (1) これまでの不登校特例校は、学びの多様化学校と名称を変えることになった。これはもはや不登校は個人の問題ではなくて教育システムの問題だと、以前から私もそう思っていたが、この点で大きく転換されたのではないかと思う。東京みらい中学校は、その一画を担っている、公教育にも大きな影響を与えるものと思っている。【定野東京みらい中学校校長】
- (2) ここ数日、小学校を訪問等する中で、東京みらい中学校に入学を希望している児童・生徒が3人程度いた。心配なのは2点。東京みらい中学校は私学なので、経済的に厳しい家庭は、なかなか希望できないということ。もう1点は、給食がなく、それが狙いということもあるかもしれないが、お弁当を作ってくるという点。家庭への支援もかなり必要だと思う。【小関教育委員】

- ➡ ご懸念はもっともだと思います。まずは成功例をつくりたいと考えている。先ほど述べた公教育への影響など、いろいろなことが分かってくると思う。経済的な問題、あるいはそうしたご家庭の支援、そうした点をつまびらかにしたいと思っている。【定野東京みらい中学校校長】

2 バーチャルの居場所づくりについて

- (1) 登校できない生徒が、バーチャル環境で学校生活を疑似体験するという一方で、東京みらい中学校で進めるバーチャルの居場所は、例えば、外部の生徒の利用も想定しているのか。【近藤区長】
 - ➡ 東京みらい中学校の教育課程の中で授業の一環として使用する場面と、それ以外の学びの交流機会の場面と、目的を明確にすれば可能性はあり、協議させていただきつつ、チャレンジしていきたい。【三幸学園 高岡氏】
- (2) メタバースは多くの自治体が参加している不登校対策。ウォークスルー3D動画(Matterport)、自由視点動画(SwipeVideo)について、360度映像でなくとも、タブレットでAR機能を使えば負荷なく見ることができると思う。自分の居場所が空間的に分かるのは技術的に面白い。3Dモデルとメタバース空間がリンクするようなことは可能か。【久保田教育委員】
 - ➡ 多分、それは別々になる。あくまでも東京みらい中学校としては、生徒たちが、その空間に訪れたときに、タグを設定しておき、そこに学習喚起につながる素材を貼っておくというような仕掛けの中で、異なる空間のメタバースだったり、メタバースなりに展開していくような接続なら可能かと考える。【三幸学園 高岡氏】
 - ➡ そうすると、全く新規の教室空間を作り、そこを足立区と合同で使うことも可能になりそうだと感じる。【久保田教育委員】

3 区立六月中学校でモデル実施中の「登校支援室(仮称)」について

- (1) この間、六月中学校のモデル事業を見学させていただいた。不登校の問題というのは、どこをゴールにするのか。不登校を本当に少なくしようとするなら、こうした、とても人手がかかる取り組みをやっていかなければならない。そうすると人材が必要になる。足立区としては大変なことだが、三幸学園と、うまく人材交流ができれば良いと思った。【早川教育委員】
 - ➡ そのとおりだと思う。子どもが減ってきている中で、逆にその子どもたちをどうするのかということを考えやすくなった。懸念は、教員の確保。子どもの数が減っているというのはチャンスであり、子どもたちを育むことは我々の責任だと思う。【定野東京みらい中学校校長】
 - ➡ 今、新校の教員を募集しているが、全国から応募があり驚いている。しかも割と若い人材が。現在の公立中学校に少し疑問を抱いている、新しい環境での

活躍の場を求めているなど、非常に志の高い方に応募いただいている。【三幸学園 野崎氏】

- ➡ こうしたことやっていくことによって、現在の公教育のどこに課題があるのか分かるかもしれないと思っている。【定野東京みらい中学校校長】

4 教員に求められるスキルについて

(1) 今、不登校は個々の対応が大事になってきている。学校に行けない、クラスに入れない、もしくは保健室には行けるなど、いろいろなパターンがある。そうした子どもたちと接するスキルということで、東京みらい中学校のオリジナルプログラム「ソーシャルスキル・トレーニング」はすばらしい。こうしたアプローチの仕方は今の公立学校では難しいのかと思う。一人の先生がこのアプローチの仕方を知っているだけで変わってくるのではないか、学校全体で対応することがこれから大事になってくるものと感じている。ノウハウを足立区の先生たちに教えていっていただきたい。【倉橋教育委員】

- ➡ まずは子どもたちに選ばれる、保護者に選ばれる学校になって、そして足立区の先生たちが対応に迷ったときに、しっかりお答えできるような学校にしていきたいと思う。【定野東京みらい中学校校長】

5 教員の人材育成について

(1) 学校の価値が変化している中で、東京みらい中学校や、区の「登校支援室（仮称）」などの新しい仕組みは非常に大切である。そして教員をどのように教育していくのが課題になる。東京みらい中学校には全国からたくさんの応募があるようだが、どのように研修する予定なのか。【久保田教育委員】

- ➡ まず大前提として義務教育の中学校であることを大事にしないといけない。その枠組みの中で、学びの多様化をどう構築していくか。進路指導方針としては、他の中学校と同じで全日制高校への進学を主軸に置いている。様々な研修はあるが、学びの多様化をあの手この手で自分たちがどう実現していくのかの発想、生徒たちの個々の異なる前提を踏まえた考え方の基点など、それらにどれだけコミットできる人材が集まってくれるかを主眼に置きながら関わらせていただいている。【三幸学園 高岡氏】
- ➡ 心構えから研修するのは非常に重要なこと。登校支援室の先生方も、心構えを180度変える必要があると思う。そこに協力いただけると大変心強いと思う。【久保田教育委員】